

特集

レジデントにとって必要な運動器疾患の診断法

—Tips and Essence—

序文

本特集号のテーマを「レジデントにとって必要な運動器疾患の診断法—Tips and Essence—」としました。このテーマを選んだ理由は、新専門医制度が開始され専攻医が運動器疾患に遭遇する際に役立つ書を、と考えたからです。日本では2019年「ラグビーワールドカップ2019™」、2020年「東京2020オリンピック・パラリンピック」、2021年「ワールドマスターズゲームズ2021関西」が3年連続で開催される「奇跡の3年」を迎えます。さらに超高齢社会を迎え、専攻医はますます運動器疾患に遭遇する機会が増えるからです。レジデントが外来で患者を診察したり、入院患者の主治医として診療に当たる際に、診断は治療方針を決定するために必要不可欠です。整形外科専門医を目指している医師は、スポーツ外傷・障害から変形性脊椎症や膝関節症などの変性疾患、腫瘍や先天異常など多岐にわたり研修を行う必要があります。そこで本特集号では、レジデントが診療に際しての道しるべになり「落とし穴」にはまらないように、“Tips and Essence”を中心に執筆をお願いしました。すべての疾患を取り上げるわけにはいきませんでしたので、以下の項目に重点を置きました。「総論」では臨床に必要な診断の基礎を、「各論」では成長期と青壮年・中高年期に分け部位ごとに項目立てて代表的疾患の診断を中心に概説していただきました。「総論」では、医療面接(問診)と徒手検査法などの診察法や画像診断(単純X線、CT、MRIなど)と、最近汎用されるようになってきた超音波診療について概説していただきました。「各論」では、まず成長期の疾患の診断時のTips and Essenceを取り上げ、上肢・脊椎・下肢の代表的疾患を、次に青壮年・中高年期に遭遇するスポーツ外傷・障害と変性疾患の代表的疾患について、部位ごとに概説していただきました。執筆は、それぞれの分野の第一人者の先生方へお願いし、“Tips and Essence”となるように、イラスト、実際の画像や表などを多用し、診断のポイントを系統立てて記載していただきました。また、重要な用語の解説を随所に取り入れ、必要不可欠な知識を限られた範囲内に簡単にまとめていただきました。ただ、誌面の制約上、取り上げることのできなかった疾患があることや、執筆にご無理を申し上げましたことを御容赦願います。専門医を目指すレジデントが実臨床において、診断の手助けとなり患者への説明に際しても有用な書となると考えています。

本特集号ではレジデントを読者の中心にしていますので、診断に際しての“Tips”と“Essence”という用語について考えてみたいと思います。“Tip”の原義は「落とす」で、海外のレストランなどで渡すチップもこの意味からきています。その後、パソコンの普及によりPC tipsとして、パソコンを利用する際の「秘訣・裏技」としての用語として利用され、一般にはヒント・コツ・アドバイス・ノウハウなどの意味で使用されています。一方、“Essence”の原義はEss(存在)ence(し続けるもの)で、本質・特質・真髄・最も重要な部分という意味を表しています。特に、料理で使用する場合のEssenceは、特質や独自の性質として用いられています。本特集号では、レジデントが運動器疾患を診断する際の、「コツ・ノウハウや真髄・最も重要なこと」と理解していただければと思っています。

本書は整形外科専門医を目指すレジデントを対象として企画しましたが、簡潔にわかりやすく重要な点をまとめて執筆していただきましたので、運動器疾患の診療に携わる専門医やメディカルスタッフを含めた医療関係者すべてにも役立つものと考えています。

最後に大変ご多忙のなか、本特集にご執筆いただいた先生方へは執筆に際し一定の形式に則ってご依頼したため、大変ご苦勞されたと拝察致しております。改めまして深謝するとともに、本特集号が常に診療の傍らに置かれ読者の皆様方の臨床に役立つことを祈念し、序文の挨拶と致します。

宮崎大学医学部整形外科

帖佐悦男